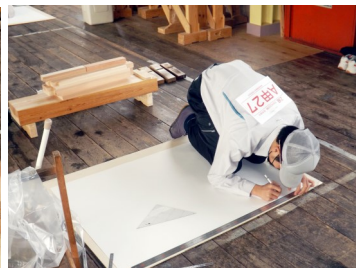


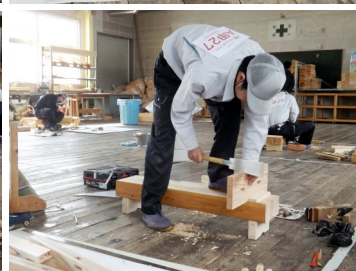
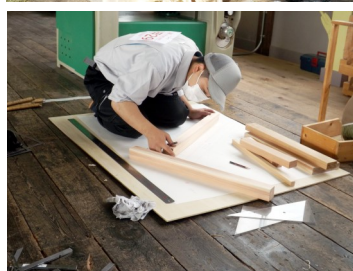
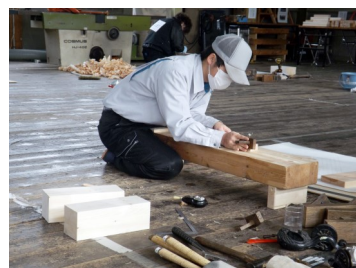
令和3年度後期2級技能検定試験建築大工技能士の受検に挑戦しました

日本の建築文化を支えてきた大工ですが、現在では大工の人口は激減しており、木の文化・技術が衰退しようとしています。大工の人口は1980年代の100万人から今では40万人以下となり、次世代を担う若者の大工が激減しています。そんな中、次世代の技能者を目指して令和3年7月に3級検定試験を受検し全員が合格した木造建築科の訓練生5名が、令和3年2月10日(木)に行われた2級技能検定実技試験にチャレンジしました。



技能検定とは、働く上で身につける、または必要とされる技能の習得レベルを評価する国家検定制度で、機械加工、建築大工やファイナンシャル・プランニングなど全部で130職種の試験があります。試験に合格すると合格証書が交付され、「技能士」と名乗ることができます。

なお、2級建築大工技能士の難易度について青森県職業能力開発協会へ伺ったところ、技能検定の建築大工職種での合格率は全国平均で37%から41%程度ということで、現役の大工でも不合格者が出る難易度ということでした。



実技試験は朝8時45分からスタートし、昼休みの45分をはさんで15時00分までの5時間30分の長丁場となっており、訓練生が原寸の図面を起こして部材を加工して製品にしていきます。2級技能検定の課題は「四方転び」と呼ばれる傾いた脚を作りますが、それに伴ってほぞとほぞ穴も同じ方向に合わせなければなりません。作業ではカンナも腕が痛くなるほどフルに使います。制限時間があるので、汗だくになるくらい本気でやらないと時間に間に合わないので、検定が終わるころには心身が消耗して疲れ切ってしまいます。



2級技能検定に挑戦した訓練生からは「初めて課題に取り組んだときは時間に間に合わせて作ることができず、本番では標準時間以内に提出することができるか不安でしたが、練習の回数を重ねていくうちに時間短縮と加工精度を上げることができ、検定当日は時間に余裕をもって完成させることができました」「今回の検定試験の練習を通して、木材加工の難しさを感じました。今後も腕を磨きながら良い作品を作る努力をしていきたいです」との感想がありました。

今回の実技試験では、受検者全員が予定時間よりも早く終わることが出来たので、実技試験の可否の結果が出るのが楽しみです。3月11日(金)の合格発表では、受検者全員に朗報が届くことを期待したいと思います。